

雑草(悪)を抜くより、花(善)をきれいに強くしましょう

おはようございます。暑いですね。ある物語を話します。

ある少年が旅に出ました。しばらく行くと気になる光景が目に入りました。二軒の建物が立っていました。それは形も模様も色も双子のように同じ建物でした。そしてそれぞれの家の前に、体つきも年齢も雰囲気も似たおじさんが一人ずつ立っていました。その上、同じ位の大きさ広さで同じ種類の花がたくさん咲いている花畑がそれぞれの家の前にあったのです。同じ建物、同じ条件を持ったおじさん、同じ種類の花。少年はもしかしたら双子じゃないかと思いました。同じ考え方を持っているから同じ建物を建て、同じ庭を作ったのだらうと思って近づいてみました。もっと近づくとさらに不思議なことに、似ている二人のおじさんの顔の表情が天と地ほど違っていました。一人はものすごく喜んだ顔、もう一人はものすごく悲しい顔をしていました。この少年はなぜ同じ条件、同じ環境の中にいながら二人の顔がこんなに違うのか気になりました。

少年はまず悲しい顔のおじさんに聞いてみました。「おじさん、なぜそんなに悲しい顔をしているのですか?」「それが聞きたいの? それには訳があるんだよ。ある日、窓から差し込む光がまぶしくて目が覚めた。立ち上がって窓の外を見たら自分の家の前に空地があることが気になり、その空地に花を栽培すれば毎日花を眺められる、そしたら今よりもっと楽しくなるのではないかと思った。それでその空地を買い、市場でいろいろな花の種を買ってきて空地に蒔いた。何日かして芽が出て、そのうち花が咲き、私が望んだ通りの花畑ができた。ところが、その花を見て楽しもうとしたら雑草も生えているのが目に入った。私の貴重な花畑になぜこのような雑草が生えたのか、こんなことはありえないと雑草を抜き始めた。最後まで抜いて、これでやっと花が楽しめると思い、後ろを振り返ったら、前の場所にもう雑草が生えていた。私は見て楽しむために花を植えたのに今は花が目に入らない。いつも雑草を抜くのに時間をとってしまい、花を楽しむことができなくなってしまった。ばかなことをしているのではないかと悲しくなる」ということだった。少年はその話に一理あると思いました。

今度は笑顔のおじさんの所に行って「おじさん、この花畑を耕すのに疲れるんじゃないですか?」と聞きました。「そう思うの? 私も日が覚めて空地を見て、そこに花畑を作ったらもっと暮らしが楽しくなるんじゃないかと思って種を蒔いた。そして一生懸命育てたらきれいな花畑ができた。しかし、その中に雑草が生えているのが分かった。それで、その雑草を取ろうとがんばったけど、後ろを見ると又悪い草が生えていた。何回も繰り返した後、これでは花を見る余裕がないことを悟った。そこで自分の考え方を直した。雑草を抜くのに時間を使うより、花をもっと強く育てた方がいいんじゃないかと。そして、いろいろな花が強くなると雑草が生えにくくなるということを体験した。今は花が楽しめるようになった。だから私はいつも笑顔でいられるんだよ」と話してくれました。こういう物語です。

実際、私も司祭になる前、修練の時にビニールハウスで花を育てる仕事をしたことがあります。先程の物語は作り話です。しかし、これが実際のことだと思って考えてみましょう。この物語から二つのメッセージを捉えることができると思います。

ひとつは、人間は幸せとか幸福についていつも条件を作ろうとしています。しかし、人間の求めるべき幸せは条件や環境の問題ではありません。自分の心がどのようになっているかによって幸せかどうかが決まります。同じ建物、同じ畑、同じ健康状態、そういう同じ条件の中にあっても、私達は不幸になるうとすればすぐに不幸になります。幸せになるうとすれば幸せになれる。もちろん条件によって難しさはあります。しかし、本当の幸せを感じさせるのは、その条件ではないことをこの物語

を通して考えてみましょう。

二番目は、人類の歴史の中で、いつも悪と善がありました。今の時代もこれからの時代も必ず悪と善があります。人類の歴史の中で犯した一番大きな愚かさが何かを説明しますと、いつも正義という名で、正しさという名で、悪をなくすためにもっと悪いやり方で悪をなくそうとしたことです。正義のために戦争を起こします。平和のために人を殺します。裕福な世界経済のために力のない国を攻めます。いつも正しさの名を前に掲げて、悪いことをなくすと言いながらやってきた人類のやり方に対して、イエス様は今日の福音を通して警告していらっしゃるのではないのでしょうか。

皆様良く考えてみて下さい。人間は好みがあります。見たくないものもあるし、見たいものもある。私達の本能は見たくないものはできるだけなくしたい。「あれがなければ私はもっと気持ち良くなる」「あの者がいなければこの共同体はもっと良くなる」と。それが人間の心だと思います。しかし、私達が悟らねばならないことは、雑草は取っても抜いても又生えてくる。その雑草が気になったら、花をもっと強くしましょう。花をもっと大事にしながら、その花のすばらしさによって雑草がなくなるようにしましょう。その方法を見せて下さったのがキリストでした。

全知全能の神が一番無能な方法で人間にやられました。そのやられたイエスに従う私達がいつも自分のやり方で、イエス様の教えとは違う方法で反対の方向に歩もうとするなら、それはまちがいだと思います。教会の歴史の中でもまちがいを犯しました。イエスという名によって人を迫害した時代もあるし、教会が権力と手を結んで神に汚名をきせた時代もありました。又ある時代は臆病になって社会正義を叫ばないこともありました。

私は子供の時こういう疑問を持っていました。なぜ愛である神は人間を愛しながら悪人と善人が一緒に住む世界を創ったのか？なぜ悪人をなくしてくれないのか？神様が悪い者を全部なくして天使のような者だけ残してくれたら、どの位幸せな世界になるだろう、という子供っぽい考え方をしていたことがあります。この考え方はまちがっていました。しかし、今の時代にも私が子供の頃持っていた考え方をしている人がカトリック信者の中にもたくさんいます。もしそれができたら、イエス様は絶対十字架の道を歩まなかったと思います。御自分がいつも語られていた「愛」に対して完璧に責任を取る方法は自分が犠牲になることでした。「敵を愛しなさい」と叫んだその口が本物であるためには、あの方は十字架の上で徹底的に無能な姿で、愛する母の前で惨めに死ぬ方法しかなかったと思います。

皆様、私達が悪を憎むのは正しいです。しかし悪をなくそうとしてもっと悪いやり方をしてはいけません。善をもっと強めましょう。それが2000年前、イエス様が教えられた唯一の方法です。しかし私達は時々忘れます。司祭である私も見たくない人を遠ざけようとする心があります。でもそれはありえないことです。私達が犠牲を払わずに善を行おうとすることはうそです。

皆様、いろいろあると思いますがやっぱり雑草は雑草です。それをなくしたかったら花をもっときれいに強く育てましょう。それが今日の福音のメッセージではないかと思います。

ありがとうございました。